

神戈陵を渡る風3

令和5年度 川辺高校 校長通信 第138号(通算)

令和6年2月9日(金)発行

2月になったばかりとと思っていましたが、来週からは中旬となります。昔から「一月往ぬる二月逃げる三月去る」と言うぐらい正月から3月までは行事が多く慌ただしく、あっという間に過ぎてしまうとされていました。それもあながち間違いではないと思うほど『二月は懸命に逃げて走っている』という感じです。さて、右の写真は、正面玄関に入って左手の校内ギャラリーにある書道部の作品です。校内に、この様な芸術作品が掲げられていると、とても文化的な香りが漂い、川辺高校は、素晴らしい学習環境だと感じられ、とても嬉しいです。



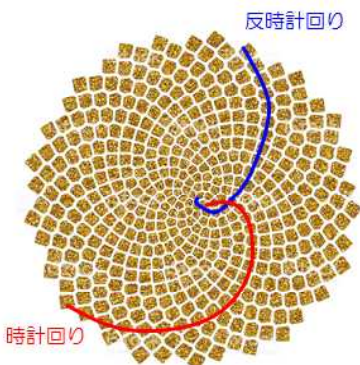
校長の最終授業

令和6年1月30日(火)



私は、この三月をもって役職定年を迎え、校長を退職します。そこで、進路が決定した3年生に向けて数学の最終授業を行いました。授業では、校長の数学との出会いと挫折、新たに興味を持ったことなどを述べさせてもらいま

した。私たちの日常の中には、数学的な要素が沢山隠れており、1例として「ひまわりの種」の並び方を調べました。準備した「ひまわりの花」の写真を元に、



①時計回りに並んだ種の並びがいくつあるのか?を数えてみました。次に、②反時計回りに数えてみるとどうなるかも調べてみました。同じ「ひまわりの花」を調べているので、①(時計回り)も、②(反時計回り)も一緒なのではと思うかもしれませんが、実は異なります。今回のケースでは、①34本、②55本の列が数えられます。多くの「ひまわりの花」が種の並び方を数えると、(21と34)、(34と55)などという特別な並びになることが知られています。この数字の組み合わせが決まっているということが大切です。ここに出てくる数字は、『フィボナッチ数列』に出てくる隣り合った2つの数字なのです。身近にある「ひまわり」がどうしてこのような数学の規則(法則)に従っているのか? とても不思議な感じがします。興味があったら、ぜひ調べてみて下さい。

数学はいろいろなところに隠れています。人間がとても美しいと感じる長方形の縦と横の長さの比は黄金比と呼ばれ、 $1:\phi$ ($\phi \approx 1.618$)だと言われています。名画と言われる「モナリザ」の構図の中にも、この黄金比が使われています。また、古代ギリシャのパルテノン神殿やミロのビーナスにも黄金比が使われています。

【数学は身近なところに隠れている】
不思議だと思うところに数学が潜んでいます。



川 辺 二 日 市

令和6年2月3・4日(土日)



県内三大市の一つである「川辺二日市」が時折降る雨の中でしたが、2月3～4日の2日間「かわなべ開運夢通り商店街(川辺町商店街)」にて開催されました。この川辺二日市は、江戸時代から続く南薩地区の春の風物詩で、240年ほど前に始まったとされています。コロナ禍で3年ぶりに開催された昨年は、2日間で14万人を超える人が訪れていました。今年も多くの辺高生がイベントを盛り上げようと、いろいろな場面で参加・活躍していました。その時の様子を写真で紹介します。



生徒会募金と署名活動等
2/3



生徒会募金と署名活動等
2/4



1日目
書道部の
パフォーマンス



1日目
音楽部の
演奏



1日目
美術部の
似顔絵描き

1日目
書道部の
一文字書き



2日目
書道・美術部
の活動 ↓

